

第 89 回 関西スペイン語教授法ワークショップ実施報告

日時：2015 年 6 月 7 日（日） 10 時 30 分～12 時 30 分

場所：関西学院大学 梅田キャンパス 1404 教室

テーマ 2

講読 *Nueva gramática BÁSICA de la lengua española*, 第 3 章 「語」

IIa 形態論 第 3 節 「数」 pp.24-30.

担当者：川口正通

言語：日本語

ワークショップ前半(テーマ 1 「日本の大学におけるスペイン語教育の制度的条件と環境」)の議論が予想以上に盛り上がり、新文法の講読にはあまり時間が取れなかったが、ハンドアウトに沿って同書第 3 章の内容を担当者が発表し、いくつかの点について参加者と議論した。当日あがった話題を以下に列挙する。

- p.26 上の *Sustantivos con singular inherente o SINGULAR TANTUM* について。「唯一物をあらわすため、通常は単数形で用いられる名詞(Son nombres que suelen usarse solo en singular, debido a que designan una entidad única [...])」とあるが、挙げられている用例は必ずしも唯一物と判断できないものが含まれているように思われる。
- p.27 下、*El plural de los compuestos* の *Compuestos léxicos* について。複数形のメーカーは第二要素に付加されるとし、その例としていくつか挙げられた語彙の中に *sacacorchos* が含まれているが、この複合語はこの形で単数形(単複同形)ではないのか。
- p.30、下から 2 段落目に挙げられている *tests* はどのように発音するのか。